

『グループワークによる情報リテラシ』書籍の発刊について

2015/10/20 魚田勝臣（専修大学名誉教授）

本書は、情報リテラシを、日ごろの情報活動についてのリテラシ(活用能力)を学ぶこと、具体的には、情報の収集、情報の分析、論理的思考、課題解決、情報の表現の活用能力と考えて編纂しました。これは情報システム学会が新情報システム学序説(以下序説)において提唱している、

人間行動＝情報行動、

情報行動の内容＝情報の入力、伝達、蓄積、処理、出力およびこれらの組み合わせと軌を一にするものです。情報リテラシ＝PC やスマホの活用能力と考える書籍が氾濫する中で、ユニークな書籍と自負しています。

書籍の名称：

グループワークによる情報リテラシ 情報の収集・分析から、論理的思考、課題解決、情報の表現まで

編著者：魚田 勝臣、著者：渥美 幸雄、植竹 朋文、大曾根 匡、関根 純、永田 奈央美、森本 祥一

本書の第一の特徴は、実社会における問題の発見と解決のための科学的な考え方と方法を組織だてて学ぶことです。とくに、知識を覚えることより「考えること」に重点をおいています。

第二の特徴は、全体を通じて、身近なゴミ問題をテーマに情報リテラシを実践的に学習することです。しかも、チームを組んでグループワークとして皆で考えて解決していきます。衆知を集めることが、よい結論を導くために大切とされています(序説第 16 章、情報システムの教育において、グループワークの重要性が強調されている)。そのため議論することに重点を置きました。

日頃から身近に感じられるテーマについて、問題を見つけ次々と分析し考察して、解明するように仕組んであります。要所に図や表をとり入れ丁寧に説明しています。

すべての活動は、報告や議論をして締めくくることが鉄則です。そのため本書では、プレゼンテーションとディベートにも力を入れています。プレゼンでは、チームワークの成果を発表するスライドの完結版を掲載しました。ディベートは、情報リテラシ能力を総合して駆使して優劣を争う「華の討論会」です。そのために、肯定側と否定側の立論用完結スライドを掲載しています。本書を読むにあたって、最初にプレゼンとディベートの完結版スライドを眺めて目標を理解してから、第 1 章に戻って、順に進めるのも、面白いかも知れません。

本書は 2000 年に刊行した『IT テキスト 基礎情報リテラシ』の執筆思想を引き継いで企画・出版しました。『コンピュータ概論 情報システム入門』、『コンピュータリテラシ 情報処理入門』と並んで、情報基礎教育 3 部作のうちの一冊です。

はじめに述べましたように、編纂にあたっては当学会が序説において提唱している、情報、情報行動、情報システム、PDCA、グループワークなどの諸概念を意識しました。学会が唱えるこうした思想を広めるために、書籍の刊行は重要な活動と考えています。今後刊行される情報リテラシに関するテキ

『グループワークによる情報リテラシ』書籍の発刊について

ストも、本書のように、序説の思想に準拠されることを願っています。

本書の編纂に関して、第 11 回情報システム学会全国大会・研究発表大会にて、報告いたします。ご参加の上、ご批判を賜りますよう、よろしく願いいたします。

以上